



日本聖心同窓会

JASH だより

Japan Alumnae Association of the Sacred Heart

2018
no.28

JASH名誉会長挨拶



聖心会
日本管区
管区長
シスター
新庄 美重子
(み47・宮16)

二〇一八年は聖フィリピン・デュシェーンがフランスからアメリカ大陸にわたってから二百年です。聖心会はこの日を記念して二〇一七年の聖フィリピン・デュシェーンの祝日（十一月十八日）からの一年を聖心家族の皆さまと一緒に、先駆者であり、ミッションの精神をよく理解し、現代におけるミッションをよりよく生きる力と知恵の恵みを願いたいと望んでいます。

二〇一七年の祝日に総長シスターバーバラ・ドーンソンは聖心の家族（聖心会員、卒業生、協働者などの皆様）に宛てた手紙に次のように書いています。

「フィリピンについて祈る時、私の頭にはいつもひとつの言葉が浮かびます。それは「persistent」（不屈の、忍耐強い、粘り強い）と言う言葉です。フィリピンは祈りにおいても行動においても、その通りの女性でした。アメリカ先住民ポタトミの人々がフィリピンに捧げた「いつも祈っている女性」という名前をよく耳にします。フィリピンについてももう少しよく知るようになった最近では、夜を徹してご聖体の前で祈り続けるだけでなく、日々の生活の中の「試練、失敗、小さな戦い、

神の民への熱烈な愛」のさなかで祈り続けるフィリピンのもうひとつの顔を思い浮かべるようになりました。聖心家族の中でのこの祈りの一年が、個々のメンバーにとっても、また共同体としても、静けさの中でも活動の場においても神との関係を強める機会となりますように、そして、私たちの使命に対する情熱を掻き立て、燃え立たせる聖霊の働きに資することができまうように願っています。」

即効性を重んじる現代の生活において、フィリピンの「persistent」な姿勢はあまり魅力的でないかもしれません。しかし、私はこの手紙を読んで、この点に共感を覚え、これは大切なことだと思いました。結果が見えなくても忍耐強く努力し続ける、失敗しても怯まず進むことはただ自分の意思を通して、自分の力でできるとがむしろに進むというのではなく、どんな状況の中にも、神が働いておられるという信頼のうちに祈りながら進むことだと思えます。日々の生活において、あきらめなくなる時、フィリピンを思い出すのは助けになると思われまう。また、世界を眺めると暴力と争いは絶えずなく、いのちの尊厳が脅かされている現実ばかりが目について、希望を失いそうになります。その時フィリピンの「persistent」な姿勢にならうって、たゆむことなく平和と喜びのある世界を築くために祈り行動することが必要です。この一年、聖心の家族皆でフィリピンの精神を思い起こす機会を大切にしたいものです。

JASH Website

JASH に関する情報をいち早く掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



jash316 検索

URL <http://www.jash316.com/>

AMASCウェブサイトはこちら

URL <http://www.amasc-sacrecoeur.org/>

Saint Rose Philippine Duchesne
1818-2018
200 Years
CROSSING FRONTIERS
越えていこう 情熱と勇氣

2018年11月18日(日)

聖ローズ・フィリピン・デュシェーン

新世界への出発 200年を

お祝します 聖心会

《祈りの1年》を皆様で分かち合えますよう
詳しくはJASHウェブサイトをご覧ください
<http://www.jash316.com/>



JASH会長退任挨拶



日本聖心
同窓会会長
中山 洋子
(み51)

二〇一四年第十五回AMASCアリゾナ大会の直前に始まりましたJASH役員としての四年間は、任期中二度目の大会となった第十六回メリダ大会参加を以て終了しました。経験不足の至らぬ会長を四年間支えて頂き本当に有難うございました。

アリゾナ大会で明らかになったAMASCの将来に対する不安は、今大会で会長国立候補を目指したヨーロッパの同窓会其々の会員減少による人材不足のため、AMASC規約の変更手続きを申し出るのみに留まったことで、早くも現実のものとなりました。他に類のない世界六大陸を結ぶ同窓会の存在意義を想う時、今こそAMASC会員の英知と総力を傾けた打開策が求められることは言うまでもありません。

国内を纏め海外との接点となるために半世紀前に発足した統合組織JASHは現在八つの同窓会によって形成され、理事会、役員会、三常設委員会の運営と活動は各同窓会の志あるメンバーが担います。この春七十年の歴史に幕を下ろされた聖心女子専門学校の同窓会三光会の数千人に上る会員も、JASHの一員として今後も活動を続けてまいります。母校の存在に替わることはできませんが共通の教育理念の絆で結ばれた者同士、共に歩んでいく

ことができますようにと願っております。

立上げから七年を経たウェブサイトはAMASC・JASHに限らず、聖心と様々な繋がりを持つ世界との通信手段となっております。昨夏JASHウェブサイトに一九二〇年代に聖心を卒業後にアメリカに渡り余生を過ごされた卒業生の子息からの問合せが舞い込み、晩年の母から伝え聞いた三光町に母の足跡を訪ねたいとの事。暑い盛りに東京を訪れた日系米国紳士は母の語学校在籍を確認し、三光町の聖堂を訪問、構内を彷徨い「人生の大きな目的を果たすことができました。」と感謝の言葉を残して帰国されました。母校の存在の大きさと、在りし日の記憶を多様な形で留めるアーカイブスの大切さを再認識した貴重な経験でした。任期当初に世代交代と若返りの必要性を感じ、爾来第一の目標としてまいりました。今号に若い世代の代表として同窓会経験の豊富な村上直子さん(み59宮28)を会長にお迎えした新役員会をご紹介できます事は大変な喜びです。折から任期最終年の昨年岡崎学長様のご厚意により大学一号館の部屋の使用が決まり、長年のJASH活動の本拠大学南門近くから移転。広い新JASH事務室は委員会と共に使用することができ、隔月の理事会の開催も夢ではありません。村上会長の下、人生設計も生活様式も異なる今の同窓生にとって可能且つ有意義なJASHの活動の実現を願いつつバトンタッチをいたします。

新会長挨拶



日本聖心
同窓会新会長
村上 直子
(み59・宮28)

この度、中山洋子会長の後任としてJASH会長をお引き受けする事となり身の引き締まる思いであります。この四年間、中山会長はじめJASH役員は、ウェブサイトや分かり易いパンフレット作製等、積極的に広報活動に励まれ、また若い方にJASHやAMASCの集いに参加するチャンスを提供される等、JASH会員である事を認識しておられない同窓生に自覚して頂くべく素晴らしい努力をされてこられました。しかし、未だにこの「JASHだより」に目を通される方以外は、JASHの名前はご存知でも、誰が参加できるのか分からない、身近な感じがしない等、無関心な割合が多いと思われまします。特に若い世代は同窓会活動に消極的な方が多いようです。今後の四年間、メンバーである国内の同窓会同士の交流に協力し、聖心会、AMASCへの窓口となり、広くつながる聖心の家族としてのネットワークを支えるJASHの活動に、より多くの方に参加して頂きますよう微力ながらも役員一同と共に全力で働きかけたいと考えております。五十年以上続くJASHの絆を更に強く長く伝え続けるために、皆様の英知とお力をお貸しくださいませ様お願い申し上げます。

退任役員挨拶

副会長 原科節子(み51・宮20)

任期中に二回のAMASC大会参加という思いがけない出来事があり忙しい四年間でしたが、役員一丸となつて中山会長を支えて無事に副会長の任務を終えることが出来て皆様の協力に心から感謝しております。

書記 赤松久子(み60・宮29)

AMASC会長来日と二回のAMASC世界大会、またJASHの連絡役としてJASH会員の皆様との所属同窓会の枠を超えた交流を通して、聖心ファミリーの絆は国内中、世界中にと繋がっていることを体験できたことに感謝いたします。

会計 汐見久美子(下19)

毎月JASH事務室には明るい挨拶の声と共に七名の役員が集まっています。私は、このJASHでの会計の四年間の任期の満了を迎えました。微力な私に温かなご指導を下さいました皆様に深くお礼申し上げます。

監事 林美穂子(上88・宮42)

着任当初、会計監事が私に務まるか不安でしたが皆さまのご指導により無事四年の任期を終えることができました。今後は若い世代への架け橋としてマザーバラのレガシーが息づいているJASHのお手伝いができれば幸いです。



委員会報告

ホスピタリティ委員会



JASH
ホスピタリティ
委員会委員長
芝本 久美子
(み59・宮28)

ホスピタリティ委員会は、AMASCホスピタリティネットワークの一環として、国内外のJASH会員またAMASC関係者のご要望に対応できるよう、活動しております。

二〇一七年度はAMASC会長、韓国聖心同窓会会長・副会長をお迎えしてのJASHの日、来日レセプションの準備をはじめ、サポートチームとしてのお手伝いなどもさせて頂きました。その際には多くの聖心スピリット溢れるボランティアの方々に支えられ活動が出来ましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。また、今年度は長年ホスピタリティ委員会を支えて下さった二名の委員に代わり、四名の新しい委員も加わり十月にはJASH役員の方々とこのミーティングの機会を頂きました。ここでは、過去のホスピタリティ委員会の活動の様子を知り、また今後の委員会としての活動についても役員の方々と一緒に検討出来るという、とても貴重な時間を持つことが出来ました。これを基盤として現在は今後の活動の方向性を細かく検討しております。

AMASC東京大会 記念基金委員会



AMASC東京大会
記念基金委員会
委員長
三富 久美子
(み55・宮24)

AMASC東京大会記念基金委員会は二千万円の基金を守り、三十年に亘り若いJASHH会員を世界と繋がる事の重要性について啓蒙し、同窓会への関心を喚起する活動を続けて参りましたが、今年度をもって基金をJASHHに返納して解散致します。若い世代の成長を確信し、新しい時代への移行の時期到来との判断によるものです。昨年七月には恒例の「JASHHヤングアラムネの集い」が開催されました。若い委員の企画による初の日曜日開催と、子連れ参加のための託児の試みが行われました。保育科卒業生のボランティアの皆さんと日曜日に開館して下さった宮代会のご好意に感謝致します。当日はメキシコ大使館に長く勤められた植田栄子さん(み40・宮9)、同級生の田中弥生さんをお招きして和やかな交流の時間を持ちました。この会の参加者の中からAMASCメリダ大会へ二名の大学四年生を委員会から送り出しました。四月以降の新年度は、若い委員たちが伝統を重んじつつ自由な発想を生かして、時代に即した委員会を立ち上げて参ります。この一年はそのための足掛かりとなり、若い委員たちはその役割を果たしました。今後とも皆様には、若い委員会を温かく見守って下さるようお願い申し上げます。

JASH資料委員会



JASH
資料委員会
委員長
田中 郁美
(茂12・三英35)

資料委員会は、聖マケダレナ・ソフィア・バラの精神を継承し、現代に活かす手段の一つとして、日本の聖心の歴史を記録し保存することを目的として、一九九〇年に設立されました。二〇一七年度も皆様から寄贈された資料の整理、保管に励んでまいりました。四半世紀を超えた委員会活動で構築された様式に沿って、資料一点一点に記号をつけ、一枚ずつカードを作成し、可能な限り正確で詳細であるよう記録しております。カード情報のデータベース入力も、二台のコンピュータで連動作業できる環境を整え、能率の向上をはかりました。資料は九月の宮代祭での展示、十一月・十二月のマザー・ブリット帰天五〇年記念企画展のため大学へ貸出を致しました。二〇一七年、資料委員会は大きな決断を致しました。大学からのご厚意と、JASHH役員のご尽力をいただき、大学一号館に新たな作業スペースと資料の保管場所の提供を受け、移転することとなりました。移転の日を含め詳細は計画中ですが、貴重な資料の散逸は許されません。綿密な準備をし、取り組んでまいります。今後とも資料委員会に皆様のご協力、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

スタディグループ委員会



スタディ
グループ
委員長
新井 協子
(み50・宮19)

AMASCメリダ大会に向けて、この一年も例会、臨時集会を通して「ソフィアの遺産―世界への贈り物」のテーマを掘り下げました。第一グループは、ソフィアのお言葉の日めくりカレンダーの和訳に取り組み、創立者の深い信仰を学びました。カレンダーは今春までたく完成です。第二グループは、創立者の旅の行程をパワーポイントにまとめ、困難にあっても神へのゆるぎない信頼の内に耐え抜いたご一生を辿りました。第三グループは、聖心のスピリットの後継者である卒業生の姿を追ひ、そのお一人、莊保共子さん(小み37・宮19)の活動の映画会と講演会を開催しました。関西支部も講演会などの活動を展開しました。二月にAMASCから二〇一六年夏に開かれた聖心会総会からの四つの呼びかけ―「より人間的に生きること」「新しい辺境の地に赴くこと」「一つの世界として行動すること」「静けさを大切にする」ということについて話し合っただけの要請がありました。各グループの活動を総括するにあさわしこれら呼びかけについて話し合いが行われ、そのまともをAMASC本部に送りしました。以上の活動の詳細と呼びかけのまともはJASHHのウェブサイトでぜひご覧ください。

同窓会報告

茂仁香会



茂仁香会
会長
井手 敬子
(茂10・宮32)

本年度より、新しい役員でスタートいたしました。私が東京在住ということで、JASH理事会にも参加させていただいております。「JASHの一員である茂仁香会」を強く感じ、多くのことを学ばせていただいております。茂仁香会の活動も時代に合わせ、LINEでの定例役員会、ホームページの活用などを進め、従来の活動のあり方を見つめ直すことが必須となりつつあります。しかしながら、総会・親睦会、友愛セールでは、卒業生が久しぶりに再会する場としての大切さを痛感するところ。本年度は名簿発行の年でもあり、学年幹事をはじめ多くの方のご尽力のおかげで完成いたしました。昨今、個人情報等の管理、バザー等の衛生上の規定等の問題があり、今までのような活動スタイルの継続が困難になる中、皆様のご協力に支えていただき、無事取り組むことができました。

来年度は、茂仁香会創立五十周年を迎えます。こうした絆がより深くなることを願い、今後の活動に繋げてまいりたいと思います。

真理茂会



真理茂会
会長
山屋 俊恵
(真21)

二〇一七年は真理茂会の総会開催年でした。私どもが卒業した札幌聖心女子学院英語専攻科は休科して久しく、総会は隔年開催が定例となっております。今年は初参加の方もいらつしやう嬉しかったです。変わらず少人数の総会です。よって、議題外のお話をする時間を設けているのも定例です。今回は、真理茂会の未来に関し忌憚のない意見交換ができました。総会を開催する度に連絡のつかない同窓生が増えていく現実。人手不足のために役員は交代がままならず今年も継続せざるを得ないこと。もちろん、予算も減少する一方。そんな現実をありのまま総会参加の皆様にお話しさせていただきました。一部の問題は他同窓会でも共通のことであり、本当に悩ましく解決策が見つからないことでもあります。しかし、この危機感を同窓生にシェアできた事は大きな一歩だったと思っております。そして九月の友愛セールでは帰省中の同窓生のお手伝いや例年にない程の沢山の販売商品の持ち寄りがあり、さらにはある学年の同窓生が有志で寄付を募られ、それを届けて下さいました。

役員としては厳しい現状ですが、そんな皆様の想いを肌で感じることができた素敵な一年でした。

みこころ会



みこころ会
会長
巻波 香子
(み57)

今年度より伊藤前会長の後を受け、会長を務めることとなりました。今年度はみこころ会創立百周年にあたり、五月に総会と一緒に記念式典と親睦会を開催し、多くのご来賓・歴代校長様方にお越しいただきました。会員も三百名以上が参加して、校内見学ツアーや恩師・友人との久方ぶりの再会を楽しみました。六月には三光会バザーに参加し、裾野ヘシスターの方の墓参に伺いました。九月は宮代祭に参加、十月はみこころ祭に参加し、総クラス幹事会も行いました。十一月の追悼ミサには四十三名の逝去者を偲んで約二百五十名が参列いたしました。社会福祉部は今年も様々な企画を催し、十一月にはシスター廣戸を囲んでの談話会を、十二月にはアイシングクッキーの講習会を開催しました。二〇一八年二月には一〇三回生を迎えて新人会員歓迎会を催しました。春には、みこころ会百年の歴史と歩み・様々な分野での同窓生の活躍などをまとめた百周年記念誌を発行しました。

みこころ会も百年という区切りを迎え、新しい時代に入りました。いつの時代にも変わらない聖心スピリットを基に、これまでの伝統を踏まえながら今の時代に合った同窓会を目指していきたいと思っています。

三光会



三光会
会長
夏目 真希
(み70・三英40)

二〇一七年四月より、三光会会長として活動しております。既にご承知の通り、二〇一八年三月に最後の保育科卒業生をもって聖心女子専門学校はその歴史に幕を下ろしました。三光会としては今後どのように活動していくか、関係者の皆様のアドバイスをいただきながらその形を懸命に模索しております。JASH理事会では、ほかの同窓会のご様子や、問題点などを共有させていただき、今後の同窓会の在り方を考える上で大変有り難く、特にJASH役員の皆様からの親身なアドバイスに、「聖心の家族」のあたたかさおを改めて実感し、心より感謝いたしております。二〇一七年に行われた、総会、三光会チャリティバザー、保育科発表会、慰霊ミサ等の三光会が関わる行事には、同窓会の先行きを案じた会員の皆様を中心に沢山の方々にご参加とご協力をいただきましたことをこの場をお借りして深く御礼申し上げます。ともに、二〇一八年も引き続きご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。今春に発行予定の三光会ニュースレターは紙面での最後の号となります。今後はJASHのウェブサイトの三光会のページで総会報告や行事についてのご案内をする予定です。でそちらを是非ご覧ください。



語学校・
ISSHアラムネ
会長

Mayling
Woo
Clements
(I'81)

二〇一七年度から任期二年目が始まり、役員一同聖心インターナショナル・スクールとアラムネの関係がより一層深まるように活動が続けております。世界の四十カ国にアラムネが点在する中で、メールはもちろん、フェイスブック、インスタグラム、そしてライブビデオを活用し世界中の会員に向けてイベント情報や活動報告を配信しております。

これからの活動として注力すべきことは、在校生に対し進学する際の大学の選択と今後の就職活動に有益な情報を提供することと心得ています。現在グローバル化及びAIが進む中、在校生にこの先注目されるスキルや専攻をヤングアラムネからのリアルな情報を提供することが有用です。日本に在住するアラムネだけではなく海外からも参加者を集めてNETを活用して若い世代に情報提供できるよう努力します。

学校で行われる様々なイベントの中、主にファミリーフェスティバル、ビンゴナイト、卒業式、追悼ミサにアラムネを代表して参加し、世界各国の約千六百名の同窓生と連絡を取り合い、イベントに参加してもらうように努力し続けたいと思います。



宮代会
会長

高島 英里子
(小み48・宮30)

二〇一七年一月より始まった大学の「グローバル教育環境整備募金」のご協力をお願いする為、全国の支部総会に、岡崎学長はじめ大学関係者と共に出席いたしました。現在の大学の状況と環境整備についてご説明頂きました。支部訪問では全国十二の支部の皆様との繋がりを強く感じる機会となりました。

通年行事の留学生昼食会、宮代祭、追悼ミサ、総会開催に加えて新しい企画として宮代会館オープンデー、聖心祭参加、不二聖心「秋のつどい」に合わせてマザー・ブリットご帰天五十年募参にも伺いました。宮代会主催として大学「グローバル教育環境整備募金」支援のOG会によるチャリティー公演、クリスマスチャリティーコンサートを開催、多くの会員の皆様に参加頂き賛同を得ました。

今年は聖フィリピン・デュシェーンがアメリカ大陸に渡って二百年の記念の年です。姉妹校同窓会の皆様と共にフロンティア精神に立ち返り、宮代会活動を進めてまいりたいと存じます。本年度の宮代祭は九月八日(土)開催となります。JASH会員の皆様のご参加をお待ちしております。



ドウシエーン会
会長

高橋 由梨
(D'23)

心に在る不二スピリット。任期二年目、役員一同はその光を原動力に、心の故郷だいたいと言える場所をテーマに活動を開始。季節毎に変化する富士を仰ぎ自己を静観した母校。何処に居ても大切な記憶が蘇る事を願い、HPの更新は素早く写真も多彩に。会報は表紙をカラーに一新し、増頁して編集を工夫しました。

六月母校での総会はシスターズや先生に「十字架の道行」等のお話を頂き、学内の御像巡りやアーカイブス室を見学。過去と現在の不二を満喫したひと時でした。九月聖心大での総幹事会では山種美術館学芸員(D'23)のミニトーク後「秋のつどい」「歓談」の二班で語られました。十一月秋のつどいは配置換えを試み通路を拡張。青い富士のもとでショッピングや再会の歓談をお楽しみ頂きました。晩秋の追悼ミサでは冠雪の富士に見守られ、ご遺族・沢山の友人・生徒さんと、ご帰天されたシスター・先生・同窓生を偲び、心をつに合わせ祈りをお捧げ致しました。どうぞ心の扉が開くHPをご覧頂き私達の母校をお訪ね下さいませ。今後全会員が一体となり、ルーツを紡ぎ繋がついていく事を願い、活動を続けて参ります。引き続きご協力を宜しくお願い申し上げます。



小林みころ会
会長

濱田 昌子
(小み49・宮31)

小林聖心は二〇二三年創立一〇〇周年を迎え、その事業の一環として校舎の修復事業を進めてまいります。五月の総会はそのことを同窓の方々に呼びかけることから活動が始まりました。小林の校舎は現在登録有形文化財に指定され、七月八日には建物保存の勉強会が行われました。十一月二十三日に「ようこそ小林の丘へ」を開催。宝塚市在住の一〇〇人の方々が校舎を見学。私たちはお茶室でおもてなしさせて頂きました。同月二十五日には追悼ミサをカトリック箕面教会矢野神父様に司式していただき、同窓生の絆を深く感じる一日となりました。十二月七日にはオーストラリアの学生三十三人との交流会。そして十二月二十日クリスマスバザーを開催。五月から綿密な計画を立て行いました。二月十四日は新会員歓迎会。これからの小林みころ会での活躍を期待します。私たちが活動の場としている小林聖心。その一〇〇年近い校舎には多くの思い出があり、海外から命を懸けて聖心スピリッツを伝えてくださった、多くのシスターの息遣いが感じられます。その校舎に、私たち小林みころ会は守っていく使命を感じずにはいられません。微力ながらお役に立てばと思っています。

International School
of the Sacred Heart



The essence of our education is the development of the whole person: intellectually, spiritually, emotionally and physically

www.iss-h.ac.jp info@iss-h.ac.jp



日本国内の聖心姉妹校の
フェイスブックページを
ご存知ですか？
ぜひご覧ください。

学校法人聖心女子学院教育ネットワーク
Sacred Heart Seven Sister Schools

<https://www.facebook.com/SeishinNetwork>

「共生」「姉妹校連携」「東日本震災」
「児童・生徒・学生募集」を
キーワードとして7校の情報を発信しています。

聖心女子大学

Be independent.
Be intelligent.
Be cooperative.



英語 英文 学
日本語 日本文 学
哲 史 学
人間 関 係 学
国際 交 流 学
心 理 学
教 育 学
初 等 教 育 学
大 学 院
修士課程/博士前期課程
博士後期課程

<http://www.u-sacred-heart.ac.jp>
<https://www.facebook.com/SeishinDiary>



札幌聖心女子学院 中学校・高等学校

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

未来はここから 世界へとつながる道を



自然豊かな札幌市の高台にある
札幌聖心女子学院。敷地内にある
寄宿舎には全国から生徒が集い、
全校生徒の3分の1が寄宿生です。
年間を通して、転入・編入試験を
行っています。
校舎、寄宿舎の見学は随時可能。
事前にお電話ください。



〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1
TEL 011-611-9231 FAX 011-612-0980

説明会等の日程は
ホームページをご覧ください。
札幌聖心 校 舎



学校法人聖心女子学院
不二聖心女子学院 中学校・高等学校
Fuji Sacred Heart School Junior High School & High School

富士山の裾野に広がる広大なキャンパス
全校生徒の約半数が寄宿生。15都府県から生徒が集います。
帰国生の転編入も積極的に受け入れています。

不二聖心 校 舎



聖心女子学院

多様に グローバルに より良く生き抜く。



2018年度入学試験

- ◆初等科1年入学試験
- ◆初等科5年転入・編入試験
- ◆中等科1年帰国生入試

詳細は、学院ホームページでご確認ください。

URL

<http://www.tky-sacred-heart.ed.jp>

<http://www.facebook.com/SacredHeartSchoolTokyo/>



小林聖心女子学院 小学校・中学校・高等学校

Big You, small i

小林聖心女子学院は95周年を迎えます

【小学校入試情報】
小1入試 2018年10月1日(月) A日程
2018年10月27日(土) B日程
転編入試(小2~5年生) 2019年1月28日(土)
帰国子女・転居による年度途中の転編入については、ご相談ください。

【中学校入試情報】
中1入試 2019年1月19日(土) A日程
2019年1月20日(日) B日程
転編入試(7年生(中1)~10年生(高1))
2018年7月/2019年1月
帰国子女転編入試
2018年7月2日(月)、2019年1月8日(火)



実践的なコミュニケーション力を重視した英語カリキュラム、
次世代を担う実行力のある女性を育てます。

〒665-0073 兵庫県宝塚市塔の町 3-113 TEL: 0797-71-7321 FAX: 0797-72-5716
WEB: www.oby-sacred-heart.ed.jp 小林聖心女子学院 中高アプリ・小アプリ

聖心女子専門学校

英語科・保育科



2016年3月に英語科69回生 2018年3月に保育科50回生
が、卒業致しました。
両科(英語科・保育科)とも、2018年4月より授業停止
となります。

〒108-0072 東京都港区白金4-11-1
TEL 03-3442-8649
URL <http://www.sen-sacred-heart.ac.jp/>

2017年度 JASHの1年

1 役員会

定例役員会 毎月 第2火曜日 全11回
臨時役員会 随時開催

2 理事会

隔月 第3火曜日 全6回

3 会長、副会長の各同窓会総会等出席

全7回

4 聖心会学校法人関係出席

定例評議員会(2回)
聖心女子大学震災復興チャリティデー出店
聖心女子大学4号館/聖心グローバルプラザ開館・
グローバル共生研究所開所記念式典
聖心インターナショナルスクール卒業式
聖心女子大学卒業式

5 JASHスタディグループ(2015-2018)

第7回ミーティング(2017年4月25日)
第8回ミーティング(2017年6月27日)
第9回ミーティング(2017年10月24日)
まとめ(2018年1月23日)

6 プレゼンテーション

宮代祭(2017年9月9日)
三光会新会員募集説明会(2018年1月29日)
茂仁香会新会員歓迎会(2018年2月5日)
ドゥシェーン会入会式(2018年2月15日)
みこころ会新入会員歓迎会(2018年2月23日)
小林みこころ会東京支部総幹事会
(2018年3月31日)

7 登録ボランティアの活動

古切手処理(随時)
「JASHの日」準備・当日進行・後片付け
(2018年3月14~16日)

8 JASH主催行事

「聖心会からの呼び掛け」Sr.新庄を迎えて
(2017年6月27日)
第16回AMASC世界大会説明会
(2017年10月24日)
映画上映会「さとにきたらええやん」
(2017年11月11日)
第32回「JASHの日」
(2018年3月16日 於聖心女子大学)

9 AMASC・その他

AMASC Newsletterへの寄稿(2017年8月)
第16回AMASC世界大会参加
(2018年2月21日~28日)
JASHグッズ販売、日めくりカレンダー制作・販売
卒業生・卒業生家族の案内



2017年度理事



2018年度役員

2018年度役員

会長 村上 直子(み59・宮28)
副会長 小澤 志津子(み57・宮26)
中込 伊都子(三英27)
書記 佐々木 麗子(宮41)
川辺 祐香(み56・宮40)
会計 六本木 真美(み52・宮34)
蔵原 由季子(み53・宮35)
監事 中川 和子(1'77・宮31)
木村 恵子(ド19・三英28)

JASH ボランティア募集

【お手伝いいただく内容】

「JASHの日」などイベントの手伝い、翻訳、
海外からの会員の案内、通訳、車での送迎、
宿泊提供など。

JASHの活動のお手伝いをしてくださるボランティアを、
常時募集しています。申し込みは、JASHウェブサイト
「JASHボランティア募集」より

古切手を集めています！

AMASCは各国の同窓生から古切手を集め、スペインの同窓会が古切手市場で換金して、AMASCの活動に役立てています。メリダ大会では、チャド、ウガンダ、キューバの大会参加者の旅費片道分援助として役立ちました。

地道ですが、AMASCにつながる活動にご協力をお願いします。

使用済切手の周囲5ミリほどを残し、JASH事務室までお送りください。



第16回 AMASC世界大会 2018 メリダ (メキシコ)

XVI AMASC World Congress 2018 Merida, Yucatan

大会日程【2018年2月22日(木)～2月25日(日)】

2/22 (木)	登録・会長会議・ウェルカムカクテル
2/23 (金)	講演・全体会・開会ミサ・夜のイベント
2/24 (土)	講演・会議・ヤングの発表・観光チチェン・イツツァ
2/25 (日)	講演・聖心会総長Sr.Dawsonのビデオメッセージ・ガラディナー



大会参加者の報告・感想

アマスクメリダ大会に参加して

石川 桂子 (小み 38・宮 20)

およそ 30 名の JASH メンバーと共に参加したメリダ大会では、講演やディスカッション、ミサなどを通して、同じ教育のもとに育ったことを各国の参加者と共有し、次世代に対し卒業生として何が出来るかを考える機会を与えられた。オーストラリアの若い卒業生や日本の現役学生の活動報告に未来に向けての可能性と若い力を感じ、世界各地の 23 名のシスター方が勢ぞろいされた姿には聖マгдаレナ・ソフィアの精神が今に継承されていることを実感した。私自身何かに向かうとき強い信念に導かれていることを感じるが、これこそがソフィの遺産であると確信し、複雑な問題を抱える現代にあって心静かに神の声を聴き、変化を恐れず、卒業生としてなすべきことを勇気をもって実行していく力にしたいと思う。

「ソフィの遺産」の分かち合い

出島 敏江 (宮 25)

スタディグループに与えられたテーマ「ソフィの遺産」に沿って、私達は 2 年に亘りその生涯を辿り、その中でソフィとフィリピン・デュシェーンとの出会い、アメリカへの旅立ちについても多くの事を学んで参りました。今大会では、Sr. Osiek の講演「フィリピンと共に新しい境界の地へ」を受け、世界中の参加者から活発な意見交換が行われました。2007 年に AMASC 役員として訪日されて以来の再会となった現ドイツ会長のシルヴィアからは、「フィリピンの熱意と多くの困難を克服しての布教活動を知り驚きと同時に深い感銘を受けた。」との感想も得られました。このメリダ大会が世界への贈り物「ソフィの遺産」について、AMASC 会員皆と実感し分かち合えた素晴らしい体験となりました。

「日本のユース代表として」

増田京美・佐々木日奈子 (み 99・宮 68)
成川安希・佐々木初奈子 (み 101)

大会では、私たちが聖心での生活で学び考えた事を発表した。他国の参加者からは、キリスト教国ではない日本においても聖心の教えが根付いている事に、深く感銘を受けたとの感想をいただいた。また、今回は聖心の世界の繋がりを初めて生に感じた会議となった。聖心が大切に行っている価値観を後世に伝えていこうとするシスター方や卒業生の強い意志を感じ、今後その教えを受け継いでいくのは私達若い世代であることも痛感した。この世界の繋がりを大切にしていきたい。実際に大会中、各国のユースが集い、今後アクションに繋げていく約束も交わした。まずは AMASC や JASH について、より多くの聖心生に知ってもらい、身近に感じてもらうことが大切だと考える。

日めくりカレンダー

「聖マгдаレナ・ソフィア・バラのお言葉」

JASH スタディグループが聖心会アメリカ・カナダ管区の日めくりカレンダーを和訳、日本語版を製作しました。

一部 2,500 円 (限定 500 部)

©Naomi KOJIMA

ご注文は、JASH ウェブサイトで受付。その他「JASH の日」および各同窓会関連行事で販売予定。



海外における「日本聖心同窓会 (JASH) 会員の集い」

世界各地に日本の聖心同窓生が暮らし、地域ごとにグループを作って親睦を深め、助け合っています。右記の地域には、「JASH 会員の集い」があり、JASH は代表者の連絡先を管理しています。また、宮代会海外支部 (シンガポール、ワシントン、南カリフォルニア) でも、JASH 会員と一緒に活動しています。

海外生活を始める方は、渡航前に、ぜひ JASH にお問い合わせください。代表者の連絡先をお知らせします。

海外「JASH 会員の集い」の所在地	
アメリカ合衆国	ニューヨーク
	サンフランシスコ/バリエリア
	シカゴ
	アリゾナ
英国	
フランス	パリ
ドイツ	
オーストラリア	シドニー

※上記以外の地域で活動されている同窓生のグループがありましたら、JASH にご登録ください。「JASH だより」や JASH ウェブサイトで、グループの存在を JASH 会員に広くお知らせし、新しく渡航される同窓生との橋渡しをします。

※各地の活動報告は、JASH ウェブサイトに掲載しています。

*Live more humanely
Reach new frontiers
Create spaces for silence
Be and act as one body*

スタディ第1グループ

聖マグダレナ・ソフィア・バラのお言葉集、日めくりカレンダーの翻訳を通して創立者の教えを改めて学び分かち合えた事に感謝し日本語訳が完成致しました。AMASCからの呼びかけ「静けさを大切にすること」を胸に、日々ソフィアのお言葉に触れ、神の御声に耳を傾けられるひと時となるようにと願っております。児島なおみさんのイラストのご協力を得て、JASH日めくりカレンダーは既に販売が開始されました。お求め頂ければ幸いです。



境家 万里子 (み83)

スタディ第2グループ



創立者の生涯を「旅」から学んできた私たちは、「辺境の地に赴くこと」との呼びかけを考察しました。平岡保枝さん(宮21)は、20年近く前、当時の駐日大使の誘いで赴いたバングラデシュで、知識も経験もない中、奥地にある村の自立支援を始められました。小学校開校、女性のための職業訓練所の設立などを実現された平岡さんの活動は、まさに未知への挑戦であり、私たちの考える「辺境の地に赴くこと」を体現されています。

唐澤 明子 (み67・宮36)

**Sophie's legacy,
a gift for the
world.**

スタディ第3グループ

「LIVE MORE HUMANELY」をテーマとした私たちは、その体現者である荘保共子さん(小み37・宮19)の活動を追ったドキュメント映画「さとにきたらええやん」の上映講演会を開催した。イベントを通して私たちは、「隣人を大切にしよう」という聖心創立者の教えと、祈りと助け合いを通じて築かれる卒業生「聖心家族」の絆が、私たちの中に深く根付いていることを実感した。

安部 玲子 (ド21・宮29)



スタディ関西支部

関西のスタディグループは人数が少ないのですが、東京からも情報を頂きながら、AMASCのテーマに応じて、学んだり、意見を出し合ったりしております。今年は、小林で長らく教鞭をとられたシスター長野興子に、ご講演頂きました。シスターのお話から、創立者の思いやお人柄、教育観などを感じることが出来ました。関西在住の聖心の卒業生が、気軽に集える会になればと思っています。

小角 裕美 (小み50)

基金ヤングメンバー

「絆」を参考文献に勉強会を開催し、「繋ぐもの」について語り合いました。「価値観の源泉を辿った時、創立者聖マグダレナ・ソフィアのお言葉やその生き方に力を頂いた。」「人生の中で出会った聖心の方は、心から温かく迎え入れて下さり、その姿と創立者の姿が重なる。」「この思いを共有することができたのは、約百年前に来日されたシスター方と志を引き継いだ方々から教育を受けたことを感謝しました。また創立者と繋がっていると実感する私達が次世代へ繋げる使命を担っていることを再認識しました。」

世界聖心同窓会 (AMASC) は、若い層の受動から能動へと変化が必要な時であり、勉強会を通して得たキーワード

「education (教育)」は聖心会の力であり続けることを強く願いました。創立者が二百年前に開いた扉から放たれた多くの種は、幾多の困難を経て、時代の流れに順応、変容し、現在息づいております。そして私達自身が「ソフィーの遺産」として考えに至りました。委員会では「JASHヤングラムネの集い」を開催し、同窓生が交わる機会を設けております。この活動はテーマの一つ「Live more humanely」「より人間的なかかわりに努めること」を受け継ぎ、行動していることを実感しております。

次世代へ繋げるために、私達が次世代のリーダーとなり、AMASCがその思いを灯し続けるために、『今』から多くの人と集い、語りそして共有する行動が大切になると確信して、活動して参りたいと思います。

神田 由美子 (真21)

第16回 AMASC世界大会(メリダ大会) XVI AMASC World Congress 2018



2月21日



空路メキシコへ



AMASC会長挨拶

2月22日



ウェルカムカクテル



会長会議

2月23日



開会ミサ



基調講演



AMASCマーケット

2月24日

ナイトツアー
チチェン・イツァ



グループディスカッション



ヤングの発表

2月25日



講演



各国会長



ガラディナー (集合写真)



海外の同窓生と

発行日 2018年3月31日
発行所 日本聖心同窓会(JASH)

発行人 中山 洋子
編集 JASH役員

住所 東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心女子大学 JASH 事務局
FAX 03-3407-0671

制作 (株) 梁プランニング